

クリエイティブ京都 M&T

Management & Technology for Creative Kyoto

Nov.2012

11

No.083

CONTENTS

- P.1 平成23年度京都中小企業優秀技術賞受賞企業紹介
- P.3 けいはんな支援企業紹介
- P.5 「けいはんなフロンティア産業フォーラム2012」のご案内
- P.6 北部企業紹介
- P.7 西安 — 上海ビジネスミッションの報告
- P.8 上海代表処だより Vol.11
- P.9 「平成24年度 京都府高等学校ロボット大会」を開催
- P.10 下請取引適正化推進月間
- P.11 設備貸与制度
- P.12 設備貸与企業紹介
- P.13 京都発!我が社の強み—(株)ケービデバイス
- P.15 環境セミナー(7/27 開催)—化学物質規制の最新動向
- P.16 企画連携課から—業務紹介
- P.17 研究報告「計装化シリアルピー試験機を用いた炭素鋼等に対する材料物性の簡易評価法の開発」
- P.18 京都発明協会行事のお知らせ(11月~12月)
- P.19 協力会M&T講演会「パートナーロボットの実用化に向けて」
- P.21 受発注コーナー
- P.23 行事予定表

京の技シリーズ

～技術開発に成果をあげ京都産業に貢献した中小企業の紹介～

平成23年度「京都中小企業優秀技術賞」を受賞された企業の概要、受賞の対象となった技術・製品等について、代表者や技術者のお話をうかがいます

【第4回】株式会社ナベル

「ひび卵検査装置」

●鶏卵の全自動選別包装機で国内トップシェア



▲代表取締役社長
丸山 勉 氏

当社は、鶏卵の全自動選別包装システムを日本で初めて開発したメーカーです。ゆで卵にならない微妙な温度で洗って乾かし、優しく掴んで対地速度ゼロでサイズごとに分け、割れないようにパッキングする機械です。現在の国内シェアは70%を超え、日本の店頭に並ぶ卵の大半がナベルのシステムでパッキングされています。

当社は1964(昭和39)年に大手電機メーカーの制御部品を製作する会社としてスタートし、77年頃、先代社長の南部邦男(現会長)が新事業を模索する中で、鶏卵の自動選別包装機のニーズに着目。当時は海外製の高価な機械しかなかったため、多くの鶏卵事業者はベルトコンベアと人手による半自動で選別とパック詰めを行っており、安価で使い勝手のよい機械が求められていました。そこで79年、海外製の3分の1から4分の1という価格で、国産初の鶏卵の自動選別包装機を開発したのです。

以来30年以上、卵分野に特化して技術革新を重ね、多くの特許技術を生み出してきました。包装機に組み合わせる形で、ひび卵検査装置、異常卵検査装置、自動汚卵検査装置、紫外線殺菌装置など画期的な新製品を市場に投入し、「卵選別のプロフェッショナル」として鶏卵業界に広く認知されています。

■世界初の音響分析で検出率95%を実現

今回、優秀技術賞を受賞した「ひび卵検査装置」は、音響分析によって卵殻のひびを検知する機械です。ベルトコンベア上を回転しながら搬送される鶏卵を、綿棒形状のプラスチック製ハンマーで軽くたたき、発生音を分析するのが特長。16個の小型ハンマーが卵の全周を打診する音をマイクで拾い、膨大なデータを計算して画像解析でも見えないひびの有無を判別します。

従来の目視によるひび判定では、ひび卵の検出率は高くても60%程度でしたが、本装置では95%という飛躍的な検出率を実現。さらに、ひび卵検出工程の自動化によって処理スピードが大幅に向上し、卵が6列で並ぶ一般的な仕様の場合、毎時4万卵という高い処理能力を誇ります。

■人の指で鶏卵をはじく光景がヒントに

卵殻にひびのある鶏卵はそこから雑菌が卵内に入り、腐敗しやすくなります。従来、鶏卵のひびは作業員が暗室で鶏卵を光に透かし、目視で検出して排除していました。しかし、この目視判定では、作業員の技量により検出結果が異なるだけでなく、検査に膨大な時間と労力を要し、またヘアクラックという微細なひびを見つけることが難しいという問題点がありました。このため、高い検出率によって鶏卵の品質を安定させ、かつ処理スピードの高い装置が長く求められていましたが、世界的にもそうした機械は存在しませんでした。

1990(平成2)年に第1号機を開発して、米国ジョージア州アトランタで開催された国際展示会に出展しました。このときは、卵を階段式の板の上を転がしながら音響分析をするものでしたが、転がした卵が衝撃で割れて板がベトベトになり、大失敗に終わりました。90年代半ばから改良に着手し、今度は卵を「上からたたく」ことにしました。これは、鶏卵工場の従業員がひびを調べるために、卵を耳元に近づけ、手の指で軽くはじいている光景を見たことが大きなヒントになりました。ピンポン玉にひびが入ると鈍い音がしてわかるのと同じ原理で、いわば人の感覚に頼る原始的な方法。これを自動化できないかと考えたのです。

しかしながら、卵は一つひとつで形も重量も殻の硬さも微妙に違います。そのすべてに対応できるシステムを開発することには苦労しました。どのような卵のどのような音をひびと捉えるのか——。さまざまな卵をたたいて、発生する音をフーリエ変換という数学的手法によって数値データに変換。この音以上ならひびとする、この音以下なら正常とするという仕分けをコンピューター上で行っていきま



▲ひび卵検査装置(全体)



▲ひび卵検査装置(拡大)

した。実に長い作業の積み重ねでした。精度を高めるため、16のハンマーとマイクの配置や制御手法にもこだわりました。

こうして世界初の音響分析による「ひび卵検査装置」が97年末に完成し、98年から販売を開始しました。その後も改良を重ね、近年の新機種では、ハンマーの手前で卵の大きさを選別し、微調整をした上でより正確に音を判別する機能も付加しています。

■“卵関連で世にないものを生み出す”が使命

この装置は、従来から「全自動鶏卵選別包装システム」を導入されているお客様にオプションとしてご提案し、発売から現在までに約600台を販売。GPセンター（鶏卵選別包装施設）の経営の安定・合理化に貢献しています。国内で同様の装置は作られておらず、外食産業のある大手が卵の入札に「ナベルのひび卵検査装置のレベル5以上を導入していること」という条件をつけるなど、国内のデファクトスタンダード(事実上の標準)となっています。また、世界では他に1社、世界最大手で欧米に基盤を持つオランダの

モバ社が当社に続いて音響分析型の装置を製造していますが、シェアは当社が断然高い状況です。

ご採用いただいたお客様からは、「卵の品質がたいへん安定した」という反響を多く頂戴しています。安価な機械ではありませんが、従業員の総賃金に換算すれば、5、6年で回収できる点は大きな魅力だと思います。

卵は現代の食生活に欠かせない栄養食品であり、世界中で卵を食べない国はありません。中でも生卵を食べる習慣がある日本は、卵の品質に対する要求がひときわ高く、日本の厳しい消費者に長年鍛えられてナベルは成長してきました。2012年8月現在、世界45カ国に機械を出荷していますが、今後は海外展開にいっそう注力しつつ、さらに卵の品質を上げるための新製品開発にも取り組み続けます。

当社の研究開発要件は、大きく二つあります。一つは、世界の鶏卵業界の工務部門になること。世界の情報・発明・知的財産を鶏卵業界に役立てていくことを目指します。ただし、世界をにらんだ機械づくりには、知的財産の保護が欠かせません。当社では2012(平成24)年度、京都産業21の戦略的な外国への特許出願等を促進する支援事業「地域中小企業外国出願支援企業」に応募し、採択されました。

もう一つの要件は、“卵関連で世にないものを生み出す”ことです。消費者目線に立てば、卵の品質を上げる視点はまだまだあるはず。それを探り続けることが、われわれナベルの使命だと考えています。

会社概要

- 会社名：株式会社ナベル
- 所在地：京都市南区西九条森本町86番地
- 代表者：丸山 勉
- 資本金：8,200万円
- 事業内容：鶏卵の全自動洗浄選別包装装置・非破壊検査装置の開発、製造、販売、メンテナンス

【お問い合わせ先】

(公財) 京都産業21 連携推進部
産学公・ベンチャー支援グループ

TEL:075-315-9425 FAX:075-314-4720

E-mail:sangaku@ki21.jp

最高金賞に輝く味わい

超特撰
月桂冠 純米大吟醸

5年連続「最高金賞」受賞

モンドセレクション 2006年～2010年

古来中国で瑞兆として尊ばれた「鳳凰」と「麒麟」をその名に戴く月桂冠「鳳麟」純米大吟醸(720ml)は、2006年～2010年のモンドセレクションで、5年連続「最高金賞」を受賞しました。世界を舞台に最高級の賞賛を浴びつづける、純米大吟醸酒の逸品。その芳醇な風味を是非ご堪能ください。

月桂冠 鳳麟 純米大吟醸

お酒は20歳になってから。お酒はおいしく適量を。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。飲酒運転は絶対にやめましょう。

GEKKEIKAN
For Your Lifestyle Taste うるおいをあなたと

画期的な情報通信技術と人間力で 次世代コミュニケーション環境を創造するICTベンチャー

株式会社クリアリンクテクノロジー

代表取締役 水原 隆道 氏

所在地 ●京都府相楽郡精華町光台1-7

けいはんなプラザ ラボ棟7階

設立 ●平成17年10月17日

業 種 ●高速通信技術およびセキュリティー技術の研究
開発、通信システム・セキュリティーシステムの
受託設計・開発、ICTソリューション

TEL ●0774-98-3873

URL ●http://clealink.jp/

●通信とセキュリティーに特化したソフトウェア開発



▲代表取締役 水原 隆道 氏

当社はICT(情報通信技術)*1ベンチャーです。単なるソフトウェアではなく、主に通信とセキュリティーに特化したソフトウェア開発、中でも海外など長距離間の通信を高速化・安定化させるための特殊なソフトウェア技術について研究開発し、製品を提供しています。

奈良先端科学技術大学院大学の研究室を経て、2005(平成17)年10月に起業しました。大学では、通信とセキュリティーに関するモバイルエージェント、つまりコンピューター間をデータや処理プログラムが移動していく過程を研究し、通信の高速化とセキュリティーの確保を重視していました。その一部を切り出して、商業化を目指したのです。いつでも、どこでも、だれでも、自由に情報を活用できる“ユビキタス社会”の到来に伴い、これからはより高度な通信性能、セキュリティーの仕組みが求められるようになると確信してのことでした。

まず、けいはんなプラザ・ラボ棟のインキュベーションルームに入居。1年半後には手狭になって7階にも部屋を借り、3年後に

インキュベーションルームを卒業。現在は7階の2部屋で、スタッフ15名が働いています。

※1 ICT(Information and Communication Technology) …従来よく使われているIT(Information Technology)という言葉に「Communication(コミュニケーション=通信)」を加えたもの。

●クラウドの普及で高まるWAN(Wide Area Network:広域通信網)高速化ニーズ

昨今、通信速度のブロードバンド(広帯域)化によって、インフラが用意している設備や能力を、現状のソフトウェアでは使い切れないという問題が生じています。震災以降、東京オフィスが被害にあった場合に備えて、関西にデータのバックアップを保存する企業が増えています。企業に蓄積された膨大なデータの送受信は非常に時間がかかります。また、関西と東京なら20ミリ秒で応答できても、関西とブラジルは700ミリ秒というように、距離によって応答速度が変わり通信速度の劣化につながります。これを解消するには回線をうまく使う技術が必要で、われわれは通信性能の高効率化を目指しているのです。

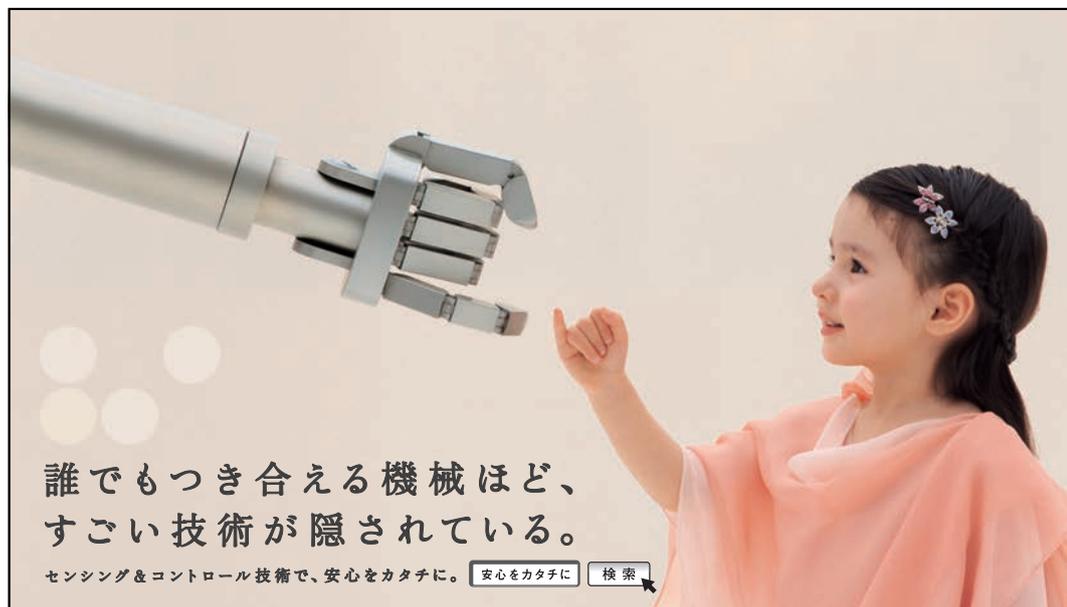
一昨年から力を入れているのが、WAN高速化装置「RAPICOM」。従来の手法とは異なる通信高速化手法で、WANトラフィックの回線利用効率を最大94%まで高めることができます。この装置は本社と支店、オフィスとデータセンターという利用環境の間に設置し、つないでいただくだけ。震災後、非常に需要が増えています。



▲WAN高効率化ネットワークアプライアンス「RAPICOM」

また最近、回線を流れる情報や蓄積しているデータが盗まれる事件が頻繁に起きています。近年、オフィスとは別空間のデータセンターに情報を保存するクラウド化が進みつつありますが、データセンターに預けていた情報が盗まれると取り返しがつきません。

当社が開発した「デジ急便」は、たとえサーバーごと持ち出さ



誰でもつき合える機械ほど、
すごい技術が隠されている。

センシング&コントロール技術で、安心をカタチに。



Sensing tomorrow™

れても情報を守れるという技術です。サーバー管理者やサービス提供している事業者であっても、情報を得ることはできず、情報の送信者と受信者の2人だけしか内容を確認できません。すでに製造業から流通企業まで幅広く導入していただいております。うち上場企業が8割を占めます。大手クラウドサービス会社へのOEM提供も行っており、日本有数のプラットフォームに組み入れられています。中小企業向けには、「デジ急便」を月額レンタルできるプランもあります。

●早期のフィールド検証で完成度を向上

企業理念は「人間力」。ソフトウェアやその技術は、使う人間のこと、人間社会のことを考えなければ作れません。人間の英知を集めて、賢く判断して進めていくことが必要です。すなわち、人間力を結集しないと、よい技術は作れないということ。販売提携をするパートナーやユーザーがわれわれに求めているのは、まさにそこだと感じるため、社内に閉じこもって研究開発に没頭するスタイルではなく、外へ出てニーズを吸い上げることが大事にしています。

もう一つ、他社と決定的に違うのが、製品の情報を早期に販売業者やお客様に開示します。できるだけ早い段階から、意見や要望をヒアリングすることで完成度を高めます。なぜこうするかというと、通信関係の装置にはよくあることですが、「便利だと思って導入してみたら、うちの利用環境に合わなかった」ということが多々あるからです。大企業ならリリースするまで機密事項ですが、当社は公開前の技術を一定の実績の下、通信環境が過酷な未知のフィールド検証等のため、お客様の協力を得て製品化に向けたアプローチを実施することがあります。一般的には難しいアプローチですが、コスト競争になるような技術ではなく、これまで世に存在しなかった技術、われわれにしかできない技術なので、お客様からは好反応をいただくことが多いです。

●海外とのテレビ会議もクリアにする「Asura HD」

9月末に発売した「Asura HD」はテレビ会議やIP映像、音声伝送のリアルタイム通信を最適化する機器です。既存のテレビと回線の間に設置するだけで、設定不要という使い勝手のよさが特長です。国内外の拠点間でテレビ会議をしたい企業が増えているものの、実際には画像や音声が悪くまともなやりとりができない



▲WAN最適化アプライアンス「Asura HD」

との声が多いのです。すでに導入されているテレビ会議システムに本機を接続することで格段に通信の精度がアップします。また、テレビ会議システム導入を検討中の企業に対して、本機とセットで導入提案をしようというテレビ会議システムの販売店からもニーズがあります。パケット通信におけるパケットの損失をリカバリーする高度なシステムを搭載しているため、高価な専用回線は必要なく、むしろインターネットのような安価な回線を使っていただくほうが、効果が大いことと特長のひとつです。価格も40万円と安価なため、好評をいただいています。

●理念共有できるソフトウェア開発者を募集中

一定の製品完成度でユーザーを探るには、アプローチ先の絞り込みが課題となります。そこで、けいはんな新産業創出交流センターの制度を活用。大手企業OBのアドバイザーの方にアプローチ先をご紹介いただき、訪問にも同行していただけたことは大きな強みになりました。すでに何件も契約していただいております、非常にありがたく感じています。

海外製で同様のシステムがあっても、価格は当社のものが格段に安いです。それは仕組みにコストがかからない設計だから。当社の製品は「低コストでコンパクト、省電力で故障も少ない」のが特長です。海外への展開も計画中ですが、国や地域で通信環境が大きく違うため、現在、商社と連携して海外の市場調査を行っています。京都産業21には、海外進出を支援する事業（京都府海外ビジネスサポートセンター）もあるので、活用を検討したいと思います。

今、一番の課題は、われわれの事業分野に関心を持つ研究者、開発者をどう集めるかです。当社が扱うものはどれも未知の技術なので、興味を持っていただきにくい。しかし、新しいものを吸収し伸ばしていこうという方なら、年齢・経験関係なく歓迎です。

今後はWi-Fiなど無線通信の最適化技術を確認し、将来的には惑星間通信にもチャレンジしたいと考えています。宇宙開発の民間事業化が進めば、相応の通信技術が必要になるため、インターネットのように使えるシステムにすることが目標です。

【お問い合わせ先】 (公財) 京都産業21 けいはんな支所

TEL:0774-95-5028 FAX:0774-98-2202
E-mail: keihanna@ki21.jp

ISHIDA

イシダ

イシダの4インチラベルプリンタ

ハイクオリティラベルプリンタ

BP-4000 Series

※RoHS 指令対応



▶ 高速・高画質・高印字品位プリントを実現

パーソナルラベルプリンタ

L-1000 Series

※RoHS 指令対応



▶ 必要なとき、その場で、即プリント

自動ラベル印字貼付機

L-2000 AT Series



▶ 工具レスのメンテナンス作業を実現

株式会社イシダ 本社/京都市左京区聖護院山王町44番地
東京支社/東京都板橋区板橋1丁目52番1号

TEL.(075)751-1686(直) 〒606-8392
TEL.(03)3962-6201(直) 〒173-0004 URL <http://www.ishida.co.jp>



「けいはんなフロンティア産業フォーラム2012～マイクロ波合成による新素材開発(省エネ型製造プロセスの創成)」のご案内

今年のノーベル賞「生理学医学賞」に「iPS細胞」を開発した山中伸弥氏(京大教授)が選定されました。我が国の科学・産業技術において誇るべき受賞です。山中教授は京大に移る前、奈良先端科学技術大学院大学に勤務(奈良先端科学技術大学院大学遺伝子教育研究センター教授)し、そのチームをひきいて京大で研究開発を進められました。けいはんな学研都市での研究開発が世界的研究成果に結びついたものといえましょう。

当財団では、けいはんな地域における世界的情報発信機能の一層の強化と新産業の創出を目指し、「けいはんなフロンティア産業フォーラム」を開催しています。今年度(第3回)は、現在、省エネルギー時代における新しい材料開発技術として注目されている「マイクロ波(電子レンジで利用)化学」技術に焦点をあて、先端技術動向・製品開発・事業化の方向等についてフォーラムを開催します。多数のご参加をお待ちしています。

【開催概要】

- 1 日時 12月7日(金) 13:30～18:30
- 2 場所 けいはんなプラザ3階「ナイル」 京都府精華町光台1-7
- 3 参加募集 70名(無料)
- 4 内容

(1) 13:35～14:05 基調講演

テーマ:「マイクロ波が拓く新しいエネルギー技術」

講師:佐藤 元泰 氏

中部大学工学部 教授(核融合科学研究所名誉教授)

(2) 14:05～15:05 講演 I

テーマ:「マイクロ波を利用した革新的材料プロセッシング」

講師:滝澤 博胤 氏

東北大学大学院工学研究科 副研究科長/教授

(3) 15:20～16:20 講演 II

テーマ:「マイクロ波化学プロセスの事業展開」

講師:塚原 保徳 氏

大阪大学大学院工学研究科 特任准教授
(マイクロ波化学(株)取締役CSO)

(4) 16:20～16:40 事例発表

「マイクロ波を活用した柑橘類精油抽出装置の開発」

高知県工業技術センター 主任研究員 村井 正徳 氏

*高知県馬路村に第1号機を設置

(5) 16:40～17:00 企業プレゼン

「マイクロ波合成技術を活用した高品質発光材料の効率的創製」

(有)ミネラルイトラボ

*京都府けいはんなベンチャーセンター卒業企業

(6) 17:15～18:30 交流懇談会

けいはんなプラザ交流棟2階「ラ・セーヌ」

会費3,000円

(7) 主催 (公財)京都産業21 京都府中小企業技術センター、 (公財)関西文化学術研究都市推進機構

共催 日本電磁波エネルギー応用学会

協賛 (公社)化学工学会関西支部、(一社)近畿化学協会、(公社)日本化学会近畿支部、(公社)日本分析化学会近畿支部、(公社)有機合成化学協会関西支部



<柑橘類精油抽出装置>

【お問い合わせ先】 (公財) 京都産業21 けいはんな支所

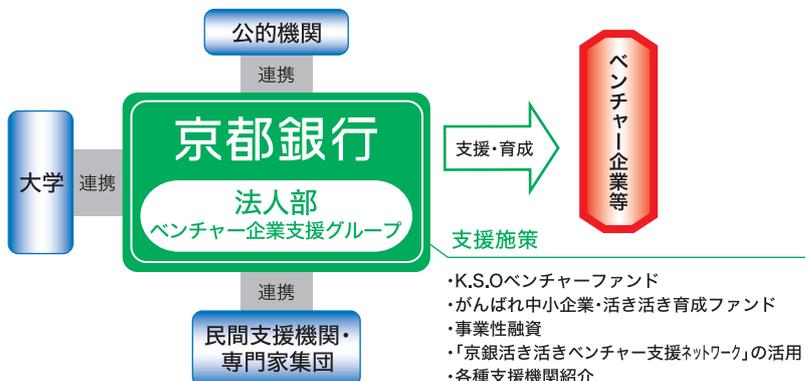
TEL:0774-95-5028 FAX:0774-98-2202

E-mail: keihanna@ki21.jp

ベンチャー企業支援グループのご案内

業務内容

- ベンチャーファンドによる株式投資やご融資を通じて、事業資金のサポートを行います。
- 資金面の支援だけでなくとどまらず、公的機関・専門機関・大学等のネットワークである「京銀生き活きベンチャー支援ネットワーク」等を通じ、経営相談をはじめベンチャー企業のあらゆるニーズにお応えします。



- 支援施策
- ・K.S.Oベンチャーファンド
 - ・がんばれ中小企業・生き活き育成ファンド
 - ・事業性融資
 - ・「京銀生き活きベンチャー支援ネットワーク」の活用
 - ・各種支援機関紹介
 - ・ビジネスマッチング
 - ・セミナーなどの開催

飾らない銀行

京都銀行

お問い合わせは

法人部

地域密着型金融推進室

ベンチャー企業支援グループ

TEL.075(361)2293

TEL.075(341)5984

現代の生活スタイルにマッチした 新しいちりめん雑貨の創出

北部地域において、自社の強みを生かし、積極的に将来の産業構造や顧客ニーズに備えて努力を続けている中小企業を紹介します。



株式会社 一色テキスタイル
代表取締役 一色 直樹 氏

所在地 ● 京都府与謝郡与謝野町岩滝739
TEL ● 0772-46-2388

FAX ● 0772-46-5066

業 種 ● 丹後ちりめん半衿地・帯揚地・
風呂敷地・婦人服地製造販売

▲代表取締役
一色 直樹 氏

● 燃糸業で創業、婦人服地生産へと拡大

当社は1965(昭和40)年、父である先代が燃糸加工とその販売業として創業しました。岩滝地域は古くから半衿や帯揚、風呂敷といった和装小物用の生地生産が盛んで、当社も和装小物の生産へと事業を拡大。また、岩滝はシルクだけでなく化繊素材の扱いにも慣れている地域です。昭和40年代半ばにポリエステル製の丹後ちりめんが開発されると、婦人服用の素材としても広く認知されるようになり、当社でも1980(昭和55)年から婦人服地を手がけるようになりました。

ちりめんの洋服はよく「肩で着る」と言われるように体型が出にくいため、特に高齢の女性に人気があります。ポリエステルちりめんは安価で扱いやすく、着心地がよいこともあって20年ほど前は非常によく売れました。しかし、その主な顧客層は当時の50歳代の女性で、そもそも普段から着物に親しんでいた方たち。だからこそ「丹後ちりめんの洋服」が喜ばれたという側面があります。しかしながら、その世代以降は着物離れが進み、一部では根強い人気があるものの、丹後ちりめんの洋服市場は縮小の一途をたどっています。

● 化繊ちりめんを用いた新しい雑貨づくりへ

そのような中、2008(平成20)年からポリエステルちりめんを用いた

婦人雑貨の生産・販売をスタート。コンセプトは、現代の生活スタイルの中で普段使いできる商品です。それまで丹後ちりめんの雑貨というと、着物柄の巾着やバッグといった和雑貨でしたが、今までにないデザインと形で、いつでも使っていただけるモダンなものにしたいという思いがありました。生地は自社で生産し、縫製はそれぞれの商品特性に合った協力工場にお願いしています。ただ、丹後は伝統的に素材産地であり、デザインはなかなか難しい。丹後外のデザイナーに依頼せざるを得ない状況は歯がゆいところです。また、丹後は消費地から遠いため、マーケティングの面でも難しい部分があります。そういったデザイナーやプランナーの確保、市場調査などで京都産業21の力を借りられたら、と思います。



▲商品の一部

● 自社製品のブランド化を目指して

小さな小売店に卸すことから始まり、現在は百貨店や通販関連にも販路が拡大。今後は特に通販を伸ばしたいと考えています。

当社の製品は他社にはないものを基本に取り扱っているため、販売店などからの最初の反応は良好です。しかし、雑貨という分野は次々と新しい商品を入れて消費者を誘導するわけですから、継続性という点で課題があります。やはり、普段使いの「定番」となるには商品のブランド化が必要であり、現在は足元からもう一度商品づくりを見直しているところです。今後は雑貨からもう少し衣類に近い服飾雑貨やリビング関連、例えばストールなどの羽織るものやクッション、エプロンなどへも展開したいと考えています。

とはいえ、こうした事業のベースにあるのは伝統的な丹後ちりめんの技術。従来の織物業も大切にしつつ、量を求める商売ではなく、少量で採算の取れる付加価値の高い製品づくりを目指しています。

【お問い合わせ先】 (公財) 京都産業 21 北部支援センター

TEL: 0772-69-3675 FAX: 0772-69-3880
E-mail: hokubu@ki21.jp

SCREEN

Fit your needs, Fit your future

期待に応じて、未来を形に・・・



大日本スクリーン製造株式会社 www.screen.co.jp

西安 — 上海ビジネスミッションの報告

～日中ものづくり商談会@上海2012に合わせて実施～

日中ものづくり商談会の開催に合わせ、ビジネスミッション(ツアー)を実施しました。その内容をご紹介します。

去る9月12日から13日の二日間に渡り、日中ものづくり商談会が上海で開催されました。この商談会には、中国での委託加工や仕入先の開拓、販路拡大などのために約580社が出展(京都からは41社が参画)し、毎年盛況で規模を拡大させている日中間で最大規模の製造業のイベントです。



▲人だかりの日中ものづくり商談会@上海



▲商談会には山田知事も足を運ばれた

今年、(公財)京都産業21ではこの商談会の開催に合わせ、京都のものづくり企業を対象としたビジネスミッション(ツアー)(団長:秀峰自動機(株) 栗山社長、参加企業9社)を初めて実施しました。

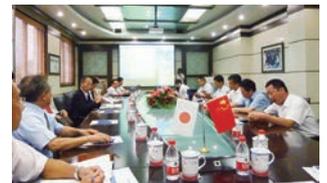
ミッション一行は9月9日に渡航、まず西安に入り2泊し、西安の上場企業への視察と商談を行いました。その後、上海に4泊して近郊の日系及びローカル企業の視察と、日中ものづくり商談会に参加しました。また、(公社)京都工業会主催の「中国産業視察研修」一行(9社)との意見交換や工場見学を実施するなど、短期間ではありましたが、充実したものになりました。

ツアーの参加者は既に中国市場へ参入している、または参入を検討している企業であり、帰国後に次のような感想をいただきました。

【参加者の感想(一部を掲載)】

- 圧倒的な規模の大きさに驚きました。あれだけの規模の中国企業から、日本の中小企業である我々に相談を持ち掛けていただけることにも驚きました。(J社)
- まだ帰国して2週間しかたっていないのに、すでに引合いがあり話を進めている状況です。参加して本当に良かった、率直な感想です。(H社)
- 今回の有意義な成果の一つは、中国の製造業の現状を共通認識できたことだと思っています。また、中小製造業の経営者の集まりでツアーを実施し、折々で生の意見交換を経営者の立ち場でできたことも嬉しく思いました。(M社)

海外ビジネスでは、現地・現場の実態に触れなければ感じられないことも数多くあります。(公財)京都産業21では、これからも海外ビジネス・海外市場を肌で感じていただくための企画を実施します。興味をお持ちの方は、下記のお問合せ先までご連絡ください。開催の予定が固まり次第、ご案内いたします。



▲中国企業と商談を行うメンバー



▲現地工場での視察



▲京都工業会の訪中団との意見交換の場面

【お問い合わせ先】

(公財) 京都産業 21 事業推進部 市場開拓グループ

TEL:075-315-8590 FAX:075-323-5211
E-mail:market@ki21.jp

samco[®]
半導体製造装置のサムコ株式会社

京都から世界の最先端企業へ 薄膜技術で世界の産業科学に貢献します。

私たちの快適な暮らしを支える半導体や電子部品。スマートフォンや電気自動車にも使われる非常に身近な存在です。その加工のために半導体製造装置は使われています。

1979年に京都に設立して以来、私たちは、半導体製造装置を世界中の生産現場や研究者の皆さまに提供してきました。環境負荷低減に寄与するLEDといったグリーンデバイス分野へも、独創的なプロセスソリューションを提案することで、低炭素社会の実現に貢献しています。

これからも、薄膜技術のバイオニアとして世界の産業科学の未来を明るく照らし続けていきます。

サムコ 株式会社

〒612-8443 京都市伏見区竹田薬屋町 36 ジャスダック証券コード 6387 www.samco.co.jp